

世界的な規制緩和や競争の激化が進むなか、企業の不祥事や事故が多く発生するようになり、市民社会の成熟化ともあいまって、市民から企業に対して厳しい目が注がれるようになってきました。今後、企業は高い倫理観を持って事業活動を行うだけでなく、より良い社会づくりのために大きな役割を果たすことが求められています。

このような流れを受け、NTT西日本グループでは1999年の創業以来の取り組みを再整理し、「CSRの考え方」を策定しました。当グループの果たすべきCSRとして、以下の3つの価値の増大を掲げています。

お客様・地球環境・地域社会に対する「社会的価値」の増大

2004年度は台風などの災害が多く、NTT西日本グループの通信設備にも甚大な被害がありました。他エリアからの広域応援も得て早期に復旧することができましたが、被災者の安否確認用の災害伝言ダイヤルは累計12万件もの利用があるなど、ライフラインとして安定的に通信サービスを提供することの責務の大きさを改めて強く認識しました。

また、NTT西日本グループが推進するブロードバンド・ユビキタスの技術は、産業構造や国民生活を変革する力を持っています。例えば、過疎化や高齢化などの問題を抱えている地域社会に対して、光IPサービスの活用で問題を解決し、地域を活性化するなどの貢献ができると考えています。

さらに、環境負荷の削減も当社の責務の一つです。2005年2月に京都議定書が発効し、CO₂排出削減は急務の課題となっていますが、電話網からインターネット網への急激な構造変革により、NTT西日本グループのCO₂排出量は微増傾向にあります。NTTグループ各社とともに省電力化施策を強力に推進する一方で、情報流通サービスを活用した社会全体の効率的なCO₂排出削減にも取り組んでいます。

株主に対する「経済的価値」の増大

企業は事業活動を通して利益を上げ、それを社会に還元することが求められています。NTTグループ全体の「中期経営戦略」の実現、財務体質の改善などを進め、株主に対する経済的な価値を高めていきます。

社員に対する「人間的価値」の増大

社員と積極的にコミュニケーションをとりながら、研修制度の充実や働きやすい職場環境づくり、人権の尊重に注力し、ブロードバンド時代に自信と誇りを持てる社員を育成していきます。

これら3つの価値の基礎には、コンプライアンスはもちろんのこと、NTT西日本グループの社員が持つべき「心」を定めた西日本スピリッツがあります。私たちはその「心」を常に意識し、それぞれのステークホルダーに対する価値を高め、将来にわたってサービスを提供し続けることで、安心・安全で持続可能な社会の構築に寄与できるものと確信しています。

本報告書では、これまでの環境報告書の内容を拡充し、NTT西日本グループのCSRの考え方と活動について掲載しています。多くの方にお読みいただき、忌憚のないご意見を賜ることができれば幸いです。

2005年 10月



代表取締役社長

森下俊三